

(別添1)

令和7年度老人保健健康増進等事業

生産性向上の取組による職員の負担軽減及びケアの質の確保・向上の効果を把握するための指標の  
在り方及び当該指標の効率的な把握手法等に関する調査研究事業

株式会社三菱総合研究所

## 1. 事業実施目的

生産性向上推進体制加算の算定においては、一定の指標について年1回の厚生労働省への報告が求められているが、生産性向上の取組による効果を適切に評価するための指標の在り方及び測定した指標の評価の方法については引き続き検討が必要である他、現場の直接介護時間の割合を測るタイムスタディ調査については、現場負担が大きいという課題がある。よって本事業では、評価指標や調査項目の在り方及び当該指標・調査項目を介護サービス事業所の現場で簡易的に測定するための手法について調査研究を行うことを目的とした。

## 2. 事業の概要

### (1) 検討委員会の実施・運営

本事業では、検討委員会として有識者、関係団体代表者等から構成される「生産性向上の取組による職員の負担軽減及びケアの質の確保・向上の効果を把握するための指標の在り方及び当該指標の効率的な把握手法等に関する調査研究事業 検討委員会」を設置し、計3回開催した。

### (2) 文献調査

生産性向上の取組による効果を適切に評価するための指標の検討することを目的として、国内外の医療・福祉分野及び他業種の生産性向上に関する文献調査を実施した。

### (3) フィージビリティスタディ（ヒアリング調査）

文献調査結果を踏まえて選定した生産性向上の取組の評価指標案における介護事業者側のフィージビリティの確認、既存のタイムスタディ調査項目の取組状況や結果の活用状況を把握することを目的に、生産性向上推進体制加算（1）を算定している事業所または特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化の適用を受けている事業所等、計8施設

（介護老人福祉施設2施設、地域密着型介護老人福祉施設1施設、介護老人保健施設2施設、特定施設入居者生活介護3施設）に対してヒアリング調査を実施した。

### (4) 報告書の作成

本調査研究事業の調査内容及び調査結果についてとりまとめ、報告書を作成した。

## 3. 事業結果の概要

・生産性向上によるケアの質の確保・向上の効果を把握するための指標の在り方については、文献調査により抽出された指標の多くが科学的介護推進体制加算の要件として、既にLIFEへの提出が求められている指標であり、生産性向上の取組の評価のために、新たな指標を設定するのではなく、科学的介護推進体制加算の算定状況やLIFE項目を活用して把握することが合理的であると考えられた。

・職員の負担軽減および生産性向上に関する指標の在り方については、文献調査より抽出された新たな指標案について、生産性向上の取組との因果関係が必ずしも明確ではなく、ヒアリング調査により現場における妥当性や納得感に課題があることが示されたため、現行の調査項目を維持する方向性が望ましいと考えられた。

・タイムスタディ調査については、文献調査において特筆すべき代替手法や標準的なフレームワークは確認されず、現場においては負担の大きい調査であると認識されていた一方で、業務の可視化や業務整理に資する重要な手段として認識されていることが明らかになった。よって、調査項目そのものを削減するのではなく、調査の枠組みを工夫することにより対応する余地があると考え、調査精度への影響を検証しつつ、柔軟な運用を認める方向で検討することが望ましいと考えられた。